



# ゆづりは

堺市立図書館だより

第12巻

第3号 (通巻45号)

発行日

平成29年12月10日

編集・発行

堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町 18-1

電話

072-(244) 3811

FAX

072-(244) 3321

URL

<http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/index.html>

## 堺っ子読書フォーラム 「子どもと本のかけ橋」

### 【第一部】

- 「さかい子ども司書」養成の実施状況について
- 図書館司書からの発信  
「図書館が登場する絵本の紹介  
～作成したブックリストから～」

### 【第二部】

- 「ことば・ほん・おとな～子どもの成長をたすけるために～」

翻訳家・児童文学作家 上田 由美子さん



平成29年10月22日(日)に東文化会館で「堺っ子読書フォーラム『子どもと本のかけ橋』」を開催しました。「堺っ子読書フォーラム」は、子どもの読書活動に関わるボランティア等と連携・協力の促進を図り、子どもの読書活動についての関心や理解を深めるため、毎年開催し今年度で10回目になります。

第一部では、「さかい子ども司書」養成の実施状況について、各図書館での取り組みを紹介しました。「子ども司書」とは、家族や友人・先生など身近な人に本や読書の楽しさを伝える読書推進リーダーです。「さかい子ども司書」を養成することで、堺の家庭や学校・地域などにおいて、読書活動が広がることを目的として、各館が創意工夫して、各区と連携しながら実施しています。当日は、その様子をスクリーンに投影しながら、ご紹介しました。



続いて、「図書館司書からの発信」として、タイトルでは気付かない作品も含め「図書館」が登場する様々な絵本を紹介しました。絵本の中で図書館がどう扱われているかを語ることを通して、多くの資料と向き合う図書館司書が日常業務の中で

知識を積み上げていくことの大切さをお伝えしました。

第二部では、翻訳家で児童文学作家の上田由美子さんに「ことば・ほん・おとな～子どもの成長をたすけるために～」と題し、ご自身の著作や翻訳書など多数の資料紹介をまじえた講演をしていただきました。長年、子どもと関わってこられた経験から、子どもが成長する過程でことばを獲得するには、おとなが関わる事が大切であることや、そのツールとして本があるということを知りやすくおはなしいただき、ご来場の方は熱心にメモをとりながら、聴いていらっしやいました。

また、会場ではボランティアグループの紹介、「さかい子ども司書」養成講座受講生の作品、上田由美子さんの著作などの展示を行いました。

## 目次

堺っ子読書フォーラム 「子どもと本のかけ橋」	… 1
広告事業者募集中	… 2
シリーズ堺の〇〇 中江兆民と『一年有半』	… 2
この本で解決!	… 3
堺かるた いろはの「ひ」	… 3
『写真とイラストで辿る金子みすゞ』	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

## ゆづりは

とは...

中央図書館の正面玄関前に、  
堺生まれの詩人、河井醉茗氏  
の歌碑があります。

年ごとに  
ゆづりゆづりて  
譲り葉の  
ゆづりしあとに  
また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、  
世代を超えても、次々に新しい  
情報をお伝えできるように、  
堺市立図書館だより  
「ゆづりは」と名づけました。



# 広告事業者募集中!

図書館では、平成24年度から、新たな財源を確保し、図書館サービスの向上を図ることを目的として広告掲載事業を実施しています。

現在行っている事業は、「堺市立図書館雑誌広告事業」、「堺市移動図書館広告事業」で、移動図書館（市内26か所巡回）や雑誌カバー等へ広告を掲載する事業者を募集し、広告料の収益を市民サービスの向上に活用しています。



図書館の施設利用者は、市内12館合計で、年間延べ約255万人（平成28年度、こども室は除く）で、身近な公共施設として、多くの利用者にご利用いただいております。会社やお店のサービス・商品をお伝えいた

く、身近な宣伝媒体としてご活用いただけます。

詳しくは、「堺市広告掲載要綱」及び「堺市広告掲載基準」「堺市移動図書館広告募集要領」・「堺市立図書館雑誌広告募集要領」をご覧ください。

※詳細は「堺市移動図書館広告」、「堺市立図書館雑誌広告」で検索、またはホームページ <http://city.sakai.lg.jp/kosodate/library/index.html> をご覧ください。



問い合わせ先：中央図書館総務課 管理係  
 〒590-0801  
 堺市堺区大仙中町18-1  
 TEL：072-244-8401（管理係直通）  
 072-244-3811（代表）  
 FAX：072-244-3321



シリーズ

## 堺の〇〇

### 中江兆民と『一年有半』

明治の自由民権運動の理論的指導者として、フランスのルソーを日本に紹介し「東洋のルソー」と呼ばれた中江兆民(1847-1901)は、晩年、堺で随想集『一年有半』を執筆しました。

岩波文庫『一年有半・続一年有半』によると、兆民は明治34年(1901)3月、病身をおして大阪にやってきます。病状が悪化したため、診察を受けたところ喉頭癌により余命一年半の診断を受けました。5月に手術を受けたのち余命いくばくという思いから『一年有半』のタイトルで執筆に取り掛かりました。7月、仕事の知り合いである堺の大上練炭会社の事務所があった当時の堺市市之町西4丁（現在の堺市立市小学校東南隅の一角）に住まいを移します。ここで書かれた『一年有半』は弟子の幸徳秋水が堺で原稿を受け取り、9月、博文館から発行されました。これは有名人の「生前の遺稿」とあって版を重ね続け20余万部を売り尽くすベストセラーになりました。

その直後2カ月少しを過ごした堺を離れ、帰京しました。薬剤で痛みを抑えながら10日ほどで最後の著作

『続一年有半』を書き上げました。しかし12月に、一年半の余命を待つまでもなく55歳で死去しました。

『一年有半』に、「堺市、浜寺風景甚（はなはだ）佳（か）なり」「堺の地魚類に富みまた味美なり」とあるように浜寺や大浜を訪ね、風景や食べ物がお気に入りだったようです。また当館所蔵の『続一年有半』には、巻頭に堺の自宅で撮った病中の写真があります。



『続一年有半』より  
 明治34年(1901)博文館  
 堺市立中央図書館蔵  
 堺の住まいで息子・丑吉と

なお堺事件が起こった慶応4年(1868)当時、中江兆民はフランス公使ロッシュの通訳として大阪に赴任していました。堺事件が土佐藩士とフランス兵との衝突であり、かつ兆民が土佐藩出身ということは……。中江兆民と堺、他にも関わりがあったのかもしれない。

#### 【参考文献】

- 『一年有半・続一年有半 岩波文庫』（岩波書店）1995年
- 『兆民先生・兆民先生行状記 岩波文庫』幸徳秋水 / 著（岩波書店）1982年
- 『八木摩天郎遺稿集』八木摩天郎 / 著（浅村寛）1992年
- 『中江兆民評伝』松永昌三 / 著（岩波書店）1993年

#### 【中江兆民を描いた小説】

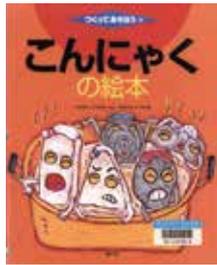
- 『火の虚舟』松本清張 / 著（文藝春秋）1968年
- 『TN君の伝記』なだいなだ / 著（福音館書店）1977年



寒い季節になってきましたね。  
冬の食べ物といえばおでんがありますが、  
こんにゃくの作り方について質問が  
あったので紹介します。

○こんにゃくを作るには？

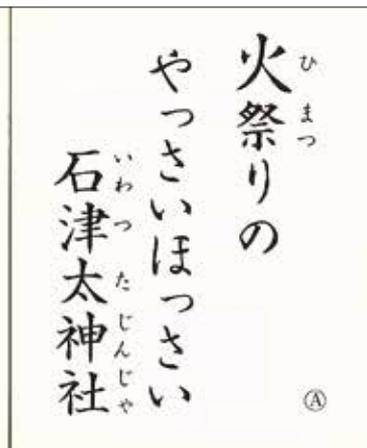
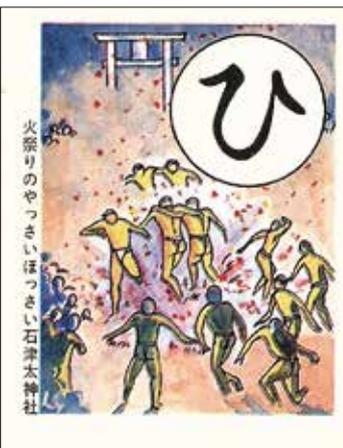
こんにゃく芋を煮たり蒸したりする方法と生のまますりおろす方法があります。どちらの方法も加工したこんにゃく芋に炭酸カリウムなどの凝固剤を水でといた灰汁を入れ、加熱し固めるとできあがりです。『こんにゃくの絵本 つくってあそぼう』（たかはた ひろゆき／へん やまざき かつみ／え 農山漁村文化協会）に写真入りで分かりやすく説明されていて、こんにゃく作りの歴史なども知ることができます。月刊かがくのとも2006年10月号『みんなでこんにゃくづくり』（菊池日出夫／さく 福音館書店）ではこんにゃく芋を育てるところから、こんにゃくを作り、料理する



ところまで載っています。子どもに読んであげるのも楽しいと思います。『すがたをかえるたべもの しゃしんえほん9 こんにゃくができるまで』（宮崎祥子／構成・文 岩崎書店）の中では工場での作り方が写真で紹介され、工程ごとになすがたが変わるこんにゃくの様子を見ることができます。この本は電子書籍でもご覧いただくことができますので、ぜひ電子図書館も覗いてみてください。大人向けの資料では『絶品手づくりこんにゃく』（永田勝也／著 農山漁村文化協会）などがあり、昔から伝わる「わら灰こんにゃく」の作り方が詳しく紹介されています。さあ、皆さんもこんにゃくづくりにチャレンジしませんか？



いわつた  
堺市西区にある石津太神社は、延喜式（927年）の神名帳にも記載のある由緒ある神社で、境内にある一の鳥居は堺市内で最も古い鳥居といわれています。「やっさいほっさい」はその石津太神社で毎年行われる火渡りの神事で、12月14日の夜、拝殿の前のひろばに108束の薪をつみかさねて燃やし、残り火の上を「やっさいほっさい」のかけ声で、若者が神人をついで火の中に飛びこむという勇ましい祭りです。



参考文献  
『むかしの堺』別所やそじ・尼見清市 / 共著 はとぶえ会  
『大阪府全志』井上正雄 / 著 清文堂

ふるさと納税で図書館児童資料の充実にご協力をお願いします  
詳しくは図書館ホームページをご覧ください。  
(<http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/oshirase/lib-furusato.html>)





# 司書のイチ押し



## 『写真とイラストで辿る金子みすゞ』 小倉真理子／著 勉誠出版

詩人、といえば誰を思い浮かべますか。私は真っ先に、童謡詩人の金子みすゞを思い浮かべます。金子みすゞの詩と出会ったのは、小学生の時でした。国語の授業で、「大漁」と「わたしと小鳥と鈴と」という詩が取り上げられ、そこで初めて金子みすゞという詩人を知りました。大漁で賑わう浜と静かで寂しげな海の中をうたった「大漁」の詩に惹きつけられ、彼女の他の詩も読んでみたいと、親に詩集をねだった記憶があります。ただ、当時は小学生だったこともあり、詩を読むことで満足し、その背景や金子みすゞ自身について調べることはありませんでした。

その後しばらく金子みすゞの詩から離れていましたが、平成23年に起こった東日本大震災をきっかけに、再び彼女の詩にふれることになりました。震災後各地で動揺が広がる中、テレビから流れる「こだまでせうか」の詩を耳にした方も多いのではないのでしょうか。このコマーシャルは、人々を癒すだけでなく、金子みすゞという女性と彼女の詩をさらに人々に親しまれるものにしたと思います。

図書館には金子みすゞについて数多くの資料があります。今回ご紹介する本は、みすゞ自らゆかりの地を選んだ「仙崎八景」について詠んだ詩を含め、彼女の人生を振り返りながら多くの詩を紹介しており、それぞれの詩に込められた彼女の思いを知ることができる1冊です。

みすゞの生涯は短いものでした。明治36年に山口県長門市仙崎に生まれた彼女は、昭和5年に26歳で自らその生涯の幕を閉じました。詩人としての活動はさらに

短く約6年半でしたが、その中で生まれた詩は、亡くなって80年以上経った現在でも多くの人の心をつかんでいます。彼女の詩は生や死に関わるものが少なくありません。2歳で父が亡くなって以来、弟との別れ、母の再婚、自身の結婚・出産・離婚など、常に出会いと別れの連続でした。そうした人生を送ってきたからこそ、短い生涯の中で生を慈しむ詩が多く詠まれたのだと思います。

最後に、私が小学生の時によく読んでいた詩を1つ紹介します。

土  
こっつん こっつん  
ぶたれる土は  
よいはたけになって  
よい麦生むよ。

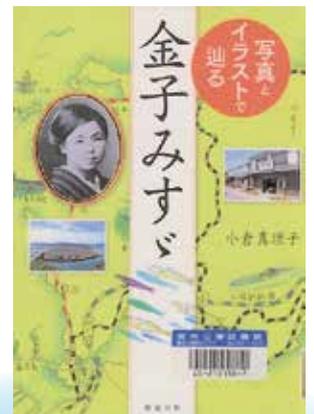
朝からばんまで  
ふまれる土は  
よいみちになって  
車を通すよ。

ぶたれぬ土は  
ふまれぬ土は  
いらぬ土か。

いえいえそれは  
名のない草の  
おやどをするよ。

金子みすゞだからこそ生みだすことができた、やさしくも寂しい詩の世界を味わってください。

(H・H)



(『金子みすゞ童謡詩集 あした』より)

### 堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター・船松人権歴史館	
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>